



延岡市における 橋梁の集約撤去について

地域インフラの最適化と維持管理の効率化を目指して

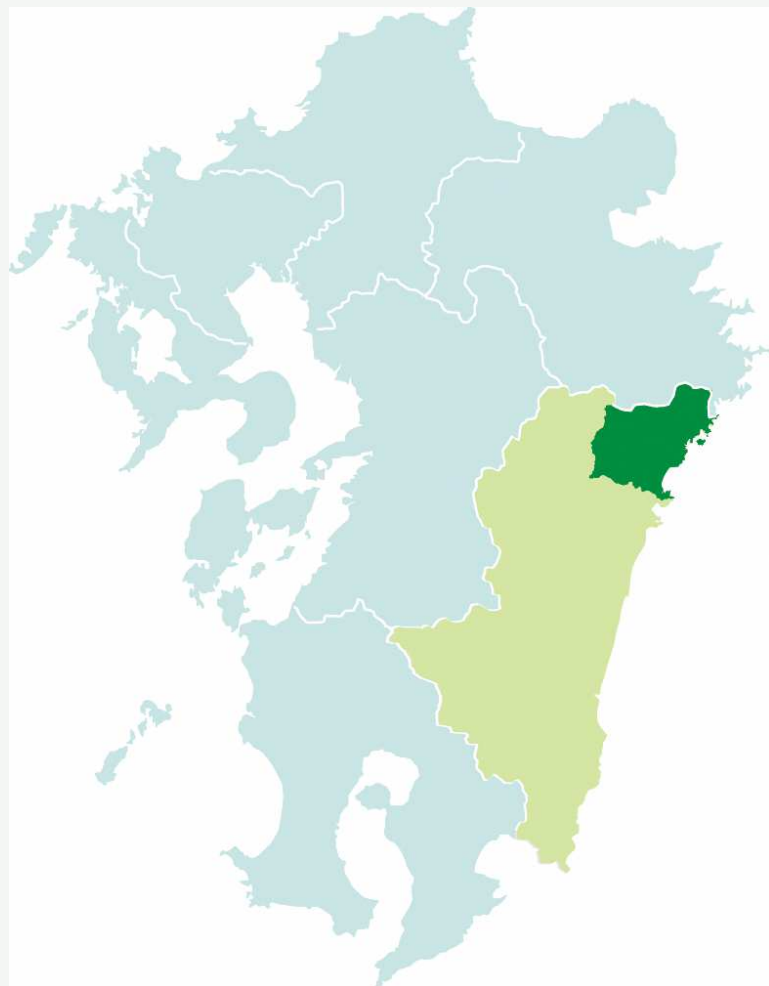
宮崎県 延岡市 都市建設部 土木課

SECTION 01

延岡市の概要とインフラの現状

延岡市が抱える橋梁老朽化の課題について

宮崎県延岡市の概要



108,044人

人口（令和8年7月）
※5年後10万人未満の可能性



682橋

管理橋梁数
（令和8年8月時点）



868.02km²

市域面積
九州で2番目に広い面積



1,457km

市道延長
（令和8年4月時点）

延岡市の地獄的特徴

広大な市域に多量の道路・橋梁資産を保持。旭化成株式会社の発祥地であり、また市民参加型の橋梁清掃等を行う「橋の日」の発祥の地（今年で41年目）でもあります。

橋梁老朽化の現状と将来予測

建設後50年以上が経過する高齢化橋梁が今後加速度的に急増。早期の対策と最適化が急務となっています。

現在（令和8年度）

16%

110橋 / 682橋
50年以上経過の橋梁割合

10年後（令和18年度）

50%

340橋 / 682橋
全体の半数が高齢化

20年後（令和28年度）

66%

450橋 / 682橋
約3分の2高齢化



予防保全型管理への転換

点検結果で判定「Ⅲ（早期措置段階）」とされた橋梁について、損傷箇所や程度を踏まえ優先的に対策を実施。道路メンテナンス補助事業や過疎債・辺地債等の地方債を有効活用し持続可能な管理を推進。

SECTION 02

下舞野 2 号橋の集約・撤去事例

老朽化対策と地域防災の課題を同時に解決した集約・撤去の具体的プロセス

対象橋梁の概要と課題

延岡市橋梁長寿命化修繕計画（R5-R9）記載

点検結果：判定Ⅲ（R1）

下舞野2号橋諸元

橋梁形式：鋼4径間連続合成H桁橋

供用年：1986（昭和60）年

橋長：24.0 m 幅員：3.0 m

直面していた重大な問題点

大雨で河川が増水した際、橋桁や橋脚に流木やゴミ（ゴソ）が引っかかり集積。河川の流下能力を阻害し、水田や周辺住宅地への浸水被害を及ぼす懸念・事例が発生していました。



事業推進のプロセス（H28～R8）



事業内容：撤去＋迂回路整備～丁寧な合意形成



① 迂回路の機能強化（道路改良）

集約先となる惣ヶ内橋へのアクセス道路（迂回路）を拡幅整備。離合が困難だった狭隘道路を安全な市道として拡幅しました。

改良前

W = 2.0m



改良後

W = 4.0m



② 段階的な地元対話と合意形成

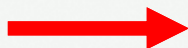
- ・丁寧な進捗伝達：段階ごとに区長へ事業進捗をきめ細かく共有。
- ・現地説明の実施：詳細設計時に地元住民と現地で入念な現地説明会を開催。
- ・柔軟な現場対応：工事中も地元の声に迅速に対応し、撤去工事に伴う必要借地等についても快諾・協力を獲得。

事業前後の写真

改良前 (W=2.0m)



改良後 (W=4.0m)



撤去前



撤去後



集約・撤去による主な事業効果



LCC（将来コスト）の縮減

架け替えや今後の定期点検・継続的な修繕にかかる将来的な維持管理費（ライフサイクルコスト）を抜本的に削減。



地域の防災力向上

流木やゴミの溜まり場となっていた阻害構造物を撤去したことで、河川の氾濫・水田や住宅地への浸水リスクを物理的に解消。



交通機能と利便性の維持

迂回路の幅員を2.0mから4.0mへ拡幅改良したことで、集約先（惣ヶ内橋）への安全で円滑な通行環境を新たに確保。

SECTION 03

結びに・今後の展望

持続可能な道路インフラ網の構築に向けた延岡市の今後の取り組み姿勢

結びに・今後の展望



選択と集中の推進

限られた財源と人員の中で、すべての橋梁を画一的に維持・更新することは困難です。地域の利用実態に応じた「選択と集中」によるインフラ最適化を推進します。



地域住民との連携・合意形成

単なる撤去ではなく「代替路の安全性向上」や「防災上のリスク解消」をセットで提示し、現場レベルでの誠実な対話を継続することが合意形成の鍵となります。



広域なメンテナンス会議の活用

宮崎県道路メンテナンス会議等を通じて国・県・他市町村との情報共有やノウハウの横展開を図り、地域全体のインフラ保全レベル向上に貢献してまいります。



ご清聴ありがとうございました

延岡市における橋梁の集約撤去取り組み事例

延岡市 都市建設部 土木課

チキン南蛮発祥の町



辛麺発祥の町

